

褒めて伸ばす 「善行チケット」

生徒のちょっとした思いやりや善行に教員が目配る。それをチケットに書き記して手渡し、たたえる。そんな活動が岡山県内の小中学校で広がり始めている。子どもが前向きな行動を引き出す米国発祥の教育手法に基づく取り組みだ。「褒めて伸ばす」を実践している学校では、授業を抜け出すといった生徒の問題行動が減少しているという。

岡山県内の小中学校

全校生徒約700人の同校は2016年にチケットを導入した。教員がこれまでに配った数は7千枚を超える。同校によると、以前は授業中に教室から抜け出す生徒が2、3%いたが、16年度は0・8%に減り、17年度は1学期末の段階でゼロ。三上政督志校長はチケットの効果とは断定しないものの「生徒間のトラブルも減り、学校の雰囲気良くなった」と実感

している。チケットは「PBIS」と呼ばれる米国発の指導方法の一環だ。「ポジティブ（積極的）な行動介入と支援」を意味する英語の略。1990年代に同国の教育省と研究者が連携して開発し、全米の約2割の学校が導入しているという。

「集団生活でどのような行動が望ましいか、十分に習得できていない子どもは多い。従来型の指導だけでは通用しなくなっている」。国内でPBISの普及を進めている

広島大学院の栗原慎二教授は指摘する。全国で不登校の小中学生が13万人を超え、小中高校での暴力行為件数は6万件近くに上るなど、子どもたちのさまざまな問題を踏まえての見解だ。

褒められることで適切な行動や人の役に立つ喜びを知り、身に付けていく。栗原教授らが提唱するチケットは倉敷市の児島、琴浦、真備中などにも広がっている。

（民直弘）

「誰が整理してくれたの？」

岡山市立福浜中3年生の教室で授業の冒頭、担任教諭が問い掛けた。生徒たちが提出した宿題が出席番号順に整えられていたからだ。一人の女子生徒が手を挙げる。教諭は映画やコンサートの鑑賞券のような横長の紙を取り出し、こう書き込んだ。

「何も言わなくても提出物を番号順に並べ直してくれました」

この紙は「Good Behavior（良い行動）チケット」と呼ばれる。女子生徒は「先生は忙しいのに提出物の順番がばらばらだと大変かなと思って」とほにかんだ。



先生からチケットをもらい、笑顔を見せる女子生徒。岡山市立福浜中

28面に続く